

寂光の都ならずば、いづくも皆  
 苦なるべし。本覚の栖を離れて、  
 何事か楽しみなるべき。  
 願わくは、「現世安穩、後生善  
 処」の妙法を持つのみこそ、ただ  
 今生の名聞、後世の弄引なるべけ  
 れ。すべからく、心を一にして南  
 無妙法蓮華経と我も唱え他をも勧  
 めんのみこそ、今生人界の思い出  
 なるべき。

(御書新版519ページ・御書全集467ページ)

### 通解

久遠の仏の住む永遠の仏国土でないなら、ど  
 こであっても皆、苦しみの世界である。生命本  
 来の仏の覚りの境地を離れて、何が楽しみとな  
 るだろうか。

願わくは、(法華経薬草喻品第5に)「現世は  
 安穩であり、来世には善い所に生まれる」と仰  
 せの妙法を持つこと、そのみが、今世の真の  
 名誉であり、来世の導きとなるのである。

ともかく、全精魂を傾けて、南無妙法蓮華経  
 と自身も唱え、他の人にも勧めることこそが、  
 人間として生まれてきたこの一生の思い出とな  
 るのである。

## 題目で希望の春を勝ち開こう！

### よくわかる解説

皆さんこんにちは、レオです！ 新たな学校生活  
 が始まったね！ 僕と一緒に御書を学んで、最高の  
 スタートを切っていこう☆

本抄は、1263年(弘長3年)、日蓮大聖人が  
 伊豆流罪を赦免された直後に著されたとされていま  
 すが、詳細は定かではありません。題号に「持妙法  
 華」とあるように、「妙法蓮華経」を「持つ」ことによ  
 って、仏の境涯が開けることを、5つの問答形式で教  
 えられています。

今回の御文の冒頭では、仏がいる国土でなけれ  
 ば、どこであっても苦しみの世界であり、仏の境  
 涯を開くこと以外に真の楽しみはないと仰せです。  
 また、「『現世安穩、後生善処』の妙法」とあるよ  
 うに、法華経を信受すれば、現世では安穩な境涯  
 となり、来世は福德に満ちた善い所に生まれてく  
 ることができると説かれています。つまり、苦し  
 いことがあっても、真剣に題目を唱えることによ  
 って、困難を見下ろし、乗り越え、希望に転換する

ことができるんだ。

あるメンバーは、小学生の時にいじめに遭い、苦  
 しんでいたんだ。ある日、母親から「相手は自分を  
 成長させてくれる存在だと思ってお題目をあげてみ  
 よう」と励まされた。最初はその言葉の意味を理解  
 できなかったけど、“5分だけでも祈ってみよう”と  
 挑戦を始めたんだって。題目をあげる中で、いつの  
 間にか「相手を嫌う自分」から「相手の幸せを祈れ  
 る自分」に変わっていることに気付いた彼は、次第  
 に相手の目を見て笑顔で接することができ、信頼し  
 合える仲間が増えたんだ。周りの人を思いやること  
 の大切さを学んだ彼は今、友達と充実した日々を送  
 っているよ。

池田先生は、「負けじ魂で『今』を大切に、一步、  
 前へ踏み出すことです。真剣に題目を唱え、学び、  
 自身を鍛えていくのです。信心とは、人生を勝ち開  
 く力なのです」と語っています。

題目で心を磨き、希望の春を勝ち開いていこう！